

みんなちがって

——文化や宗教の違いを
保ったまま共に生きるには

Living with Difference:

An Experiential Workshop on
Tradition and History

《☺》 地域公開 WORKSHOP 《☺》

ボストン大学教授で山口県立大学客員教授の
アダム・セリグマン教授を迎えて
一泊二日のにぎやかなワークショップ!!

▶講師のセリグマン教授。山口県立大学のしいたけ山にて。



日時：2017年 **2月19日** (日) ~ **20日** (月)

場所：徳地青少年自然の家 (山口市徳地船路 668 tel 0835-56-0111)

参加費：食費+シーツ代 200 円のみ。

全行程で 3500 円程度。宿泊費と交通費はかかりません。

使用言語：日本語・英語 (通訳あり)・その他

◆今 私たちとはまったく違う人たちと、平和に共存できる世界はどうしたらつくれるのでしょうか。テロや内戦や差別のない世界をつくることはできないのでしょうか。

セリグマン教授が音頭をとって、2003年にボスニアとヘルツェゴビナとクロアチアで2週間のプログラムを行ったのが、文化と宗教の違いを生きるための2週間の合宿、CEDAR プログラムです。その後、毎年ブルガリア、イギリス、イスラエル、インドネシア、ウガンダ、アメリカなどで開催してきました。のべ50ヵ国から学生、社会人、宗教指導者と社会のリーダーたち合

計500人が参加してきました。

敬虔なユダヤ教徒であるセリグマン教授自身、日本では肉食



をされず、魚介類は鱗とヒレのある魚のみを食べられます（貝類・イカ・タコ・エビ・カニ・ウナギはだめ）。また金曜日の日没から土曜日の日没までは、安息日として、車に乗ったり、料理をしたりされません。一泊二日をともに過ごし、なぜその

ような生き方をするのかそれを伺うだけでも、すでに日本人には新鮮な「未知との遭遇」です。

文化や宗教が異なるさまざまなアイデンティティをもった人々がともに暮らし、互いに譲れない違いがあることを認め、「他者」から学ぶというプログラムを、実際に経験してみませんか。

まず、神社や教会を訪ねて、参加者の間の違いを実感しつつお互いを知り、その後は、自然に囲まれた徳地青少年自然の家に移動して、CEDARの2週間を凝縮させた経験を共有します。きっと「みんな違ってみんな変（いい!）」を実感できるでしょう。

●スケジュール（変更の可能性あります。）

2017年2月

19
(日)

午前8:30 山口県立大学集合

神社と教会を訪ねるフィールドワーク

午後

講義と活動：CEDAR プログラムの紹介

20
(月)

午前

講義と活動：平和な世界をつくるには

午後

活動とまとめ：山口での課題を考える

（山口県立大学解散18時の予定）

徳地は
寒いです。
あたたかい
服装を。

●主催

山口県立大学COC（地（知）の拠点）プログラム やまぐち学研究（責任者：岩野雅子）
〒753-8502 山口市桜島3-2-1 山口県立大学異文化交流論研究室

●お問合せ・お申し込み（Eメールでお願いいたします。先着20名様までとなります。）

山口県立大学国際文化学部教授 安溪遊地（あんけい・ゆうじ） y@ankei.jp